

Since
1936

リコーのあゆみ

【トピックス】



1936 - 1969

創業～事務機分野進出

1970 - 1984

OA を提唱



1974年に世界で初めて事務用高速ファクシミリ「リファクス600S」を発売。1977年には業界で初めて「OA(オフィス・オートメーション)」を提唱しました。1980年代には、オフィスコンピューターやワープロ、光ファイリングシステム、レーザープリンターなどを順次提供し、オフィスの生産性向上を支援しました。

1985 - 1999

デジタル化を推進

2000 - 2009

グローバルカンパニーへ

2010 - Present

新たなお客様価値の創造へ

1970年1月

100%出資の現地法人 Ricoh of America, Inc. を ニュージャージー州に設立

世界的なヒット商品の誕生とともに世界各国の大手メーカーとの技術提携も活発に行われ、台湾、韓国、アメリカ、オランダに現地法人を次々と設立、海外へとリコーブランドを広げていきました。1970年にはニューヨーク事務所とRicoch Industries, U.S.A., Inc.を統合し北米の拠点となるRicoch of America, Inc.をいち早く設立しています。



Ricoch of America, Inc. を設立 (1970年1月)

1970年3月

日本万国博に「よりよき人類の眼」をテーマにリコー館を出展

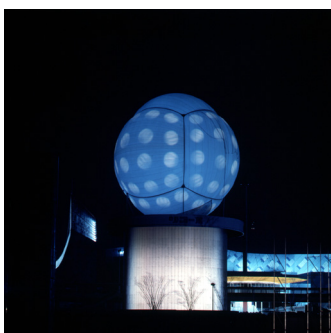
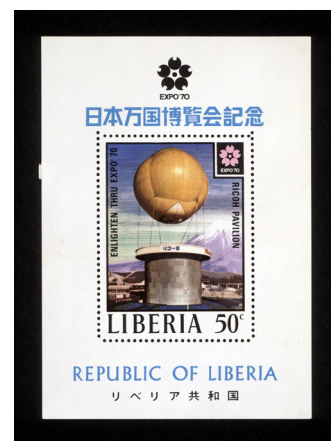
アジアで初となる「日本万国博覧会」は1970年3月15日から183日間にわたり、大阪で開催されました。“人類の進歩と調和”をテーマとした祭典にリコーは、技術の総力を傾けたリコー館を出展。奇抜なアイデアとユニークさは多くの人の心をとらえ、期間中700万人以上もの来場者を集め好評を博しました。



連日の賑わいを見せたリコー館



フロートビジョン「天の眼」

大阪名物となったネオン塔
(豊中市)南アフリカ・リベリア共和国の切手の
モデルにもなったリコー館

1971年4月

オフィスコンピューターの1号機「リコム8」を発売

1970年代に急成長したオフィスコンピューター分野においてリコーは、ブームの先陣を切る商品開発を行いました。1971年にTDK社と共同開発された「リコム8」はリコーのオフィスコンピューター1号機です。

2~4kバイトの磁気コアメモリーと、64ビットの演算処理装置は、当時では抜群の記憶容量と高速性を誇り、また、設置面積を少なくしたタワー型のデザインという点でも注目されました。



リコム8 (1971年)

1973年4月

事務用高速ファクシミリの1号機「リファクス600S」が アメリカとの国際間電送に成功

本機は2014年度「未来技術遺産」第00170号に認定されました

それまでA4原稿を1枚送信するのに3～6分かかっていた電送時間を一気に1分に短縮し、さらに国際間電送も可能にした世界初の事務用高速ファクシミリ、それがリコーの「リファクス600S」です。1973年4月の製品発表会では、世界で初めて東京とニューヨーク間で衛星回線経由によるファクスの送受信が行われ、「技術のリコー」の名を世界にとどろかせました。



アメリカに空輸されるリファクス600S(1975年)



リファクス600S (1974年)



夢の60秒高速ファクシミリ「リファクス600S」の発表会(1973年4月経団連会館にて佐藤栄作首相と館林社長)

関連サイト

リファクス600S: 公衆回線網に接続する世界初の一般事務用高速デジタルファクシミリ

<http://jp.ricoh.com/company/history/1970/rifax600s.html>

1975年2月

PPC のベストセラー機 「ニューリコピー DT1200」を発売

「ニューリコピー-DT1200」は、年々ハイレベルになる普通紙複写機(PPC)への要望に応えるべく開発されたリコーの自信作でした。普及機としては初めて2種類の用紙をワンタッチで切り替えることができ、また、「液体现像方式」により、最後の一滴までトナーを使い切ることができました。また、このマシンは、100万枚の連続コピーテストでも画像が薄くなることなく安定したコピーを実現し、メンテナンス作業を軽減。特に広大な面積のアメリカで好評を博しました。世界の湿式複写機の流れを変えた歴史的商品として、1991年アメリカの「Copier Hall of Fame」(コピーの殿堂入り)を受賞しました。



高品質で高い評価を得たニューリコピー DT シリーズ (1975 年)



厚木事業所で開かれたニューリコピー DT1200 の増産決起大会 (1975 年 10 月)

1975年11月

事務機業界初のデミング賞実施賞を受賞

「不況に強い企業づくり」を合い言葉に、1971年11月、リコーは品質管理の最高賞「デミング賞」受賞を目標として掲げ、以後3年10ヵ月の間、全社を挙げてさまざまなTQC(統合的品質管理)活動を展開し、経営体質の改善に努めました。その結果、1975年11月17日、事務機メーカーでは初の栄誉となる「デミング賞」実施賞を受賞。同時に、新たな時代に向けて企業体質改善のオーバーホールを果たしたのです。



デミングメダル



受賞式でデミング博士と
握手を交わす館林社長
(経団連会館1975年11月17日)

1982年6月

拡大・縮小機能付 A3 判 PPC 「リコピー FT4060」を発売

拡大・縮小機能付のA3判PPC「リコピー FT4060」は、小型機でありながら高い画質と耐久性を誇り、発売からわずか10ヵ月で10万台を売り上げた大ヒットマシンでした。

新開発の電子写真作像システムを搭載し、トナーなどのサプライ、メカニズム、さまざまな技術の集大成により、小型・高品質・高耐久性を実現。豊富な用紙に対応し、オフィスのコピー作業の効率化に大きく貢献しました。



リコピー FT 4060 (左) / リコピー FT 4030



理研からリコーへの社名変更広告 (1963年)

1983年12月

イギリスに現地法人 Ricoh UK Products Ltd. を設立

海外事業もこの時期にめざましい動きをみせます。1978年度の輸出実績は全体の34.1%を占め、現地法人も世界各地に次々と展開していきました。1979年に、アメリカ・カリフォルニア州にOA関連機器の生産会社Ricoh Electronics Inc.を設立。続いて、1983年12月には、イギリス・テルフォードでOA関連製品の生産拠点としてリコーUKプロダクツがその活動を開始しています。先行していた北米に続き、欧州においても次代への飛躍のための基盤づくりが着々と進行しました。



欧州で初めてのリコー生産会社 Ricoh UK Products Ltd. (RPL)



RPL の設立を発表したラモント通産大臣と浜田社長（1983年10月）